

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月21日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22530381

研究課題名（和文） 宗教・文化混合地域における企業経営
—イスラーム圏とヒンドゥー圏の比較研究を通して—

研究課題名（英文）

Corporate Management in Multi Religious and Cultural Area
-Comparative Studies on Islamic and Hindu Areas-

研究代表者

阿部 克彦 (ABE KATSUHIKO)

神奈川大学・経営学部・准教授

研究者番号：40316906

研究成果の概要（和文）：

本研究では、「宗教・文化混合地域における企業経営—イスラーム圏とヒンドゥー圏の比較研究を通して—」を検討した。そのために、イスラーム圏とヒンドゥー圏における宗教・文化に基づいた①商慣行・会社法制度と、②トップマネジメントと企業経営機構、③企業経営の融合の3つを深く考察した。

本研究の新規性は、今日まで、このような研究が日本国内だけではなく、日本国外でも行われていないことにある。関連した研究では、「イスラーム金融」や「インド経済」に関する文献が多少存在するものの、宗教・文化と企業経営の関係を明らかにした研究が非常に少ない。

研究成果の概要（英文）：

This research aimed to clarifying the following three problems based on religion and culture in the Islamic area and the Hindu area. They are (1) an ordinary course of business and a company law system, (2) top management and a corporate management mechanism, (3) fusion of corporate management.

Such research is hardly done all over the world till today. Although the literature about "Islamic Finance" or "Indian Economy" exists somewhat, there are no researches clarifying the relation between religion, culture, and corporate management.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	600000	180000	780000
2011年度	600000	180000	780000
2012年度	600000	180000	780000
年度			
年度			
総計	1800000	540000	2340000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：企業経営

1. 研究開始当初の背景

本研究のテーマである「宗教・文化混合地

域における企業経営—イスラーム圏とヒンドゥー圏の比較研究を通して」に着想した背景は、2つが挙げられる。

1つ目は、宗教・文化が企業経営に強い影響を与えているイスラーム圏とヒンドゥー圏の急速な経済成長である。イスラーム圏のアラブ首長国連邦では平均 6%、ヒンドゥー圏のインドは平均 7%の経済成長というように、この地域では、高い経済成長を遂げている国が多い。この高成長の理由は、イスラーム圏では急激に緩和されつつある文化や法律の障壁であり、ヒンドゥー圏ではタタなどのファミリー企業の急成長による経済の勃興や活性化であると考えている。これにより、現代の会社法制度に基づいた企業経営が行われつつある。そこで、イスラーム圏やヒンドゥー圏における商慣行・会社法制度やファミリー企業の経営実態を考察することにより、企業経営の全貌を明らかにしたいと考えたのである。

2つ目は、企業経営の国際化に伴うイスラーム圏とヒンドゥー圏の接近である。イスラーム圏とヒンドゥー圏では、宗教・文化が人々の生活だけではなく、企業経営にも影響を与えている。このような、相対する宗教・文化が接近し、融合が起こった場合に、今までにみられることのなかった企業経営が行われると考えている。これにより、今後、他の宗教・文化との企業経営の融合も行われるはずである。そこで、イスラーム圏とヒンドゥー圏の混在地域の企業経営の実態を考察することにより、企業経営の融合の現状を明らかにしたいと考えたのである。

2. 研究の目的

本研究では、「宗教・文化混合地域における企業経営—イスラーム圏とヒンドゥー圏の比較研究を通して」を検討することを研究目的に設定した。このため、イスラーム圏とヒンドゥー圏における宗教・文化に基づいた①商慣行・会社法制度、②トップマネジメントと企業経営機構、③企業経営の融合、の3つを明らかにした。具体的に、①では、1)商慣行・会社法制度の系譜、2)商慣行・会社法制度と企業経営の2つについて、②では、1)ファミリー企業の経営実態、2)経営者、情報開示・透明性の2つについて、③では、1)企業経営の融合の系譜、2)21世紀の企業経営の融合の展望の2つについて、それぞれ、理論的および実証的に検討した。

3. 研究の方法

「宗教・文化混合地域における企業経営—イスラーム圏とヒンドゥー圏の比較研究を通して」に関する研究を行うため、3年にわたる研究実施した。まず、平成 22 年度には、イスラーム圏における宗教・文化に基づいた企業経営に関する研究を行った。つぎに、平成 23 年度には、ヒンドゥー圏における宗教・文化に基づいた企業経営に関する研究を行った。そして、平成 24 年度には、イスラーム圏とヒンドゥー圏の混在地域に関する研究と企業経営の融合に関する研究を行った。

そして、研究方法については、文献調査や実地調査（海外企業へのアンケート調査等）、実証調査を中心に行った。研究成果は、所属する学会や学内の紀要への論文投稿や学会発表など、積極的に成果を発表した。

4. 研究成果

本研究は、イスラーム圏とヒンドゥー圏の2つを研究対象とした。まず、イスラームは、キリスト教に次ぐ世界第 2 位の宗教であり、約 15 億人の教徒を擁している。イスラームは、世界の 50 カ国以上に点在している。そのなかでも、本研究では、アラブ首長国連邦のドバイとトルコ共和国に焦点をあてた。この理由は、アラブ首長国連邦のなかでも最も人口の多いドバイは、政治的にはイスラーム教徒が主導権をもつが、外国出身者が人口の約 8 割を占め、そのなかでもインド系の住民が人口の半数を占める多文化社会を形成しているためである。また、トルコ、特にその中心的都市イスタンブールは、EU 圏と経済的な関係が深いものの、中東や中央アジアのイスラーム諸国に対してもその影響力を強めている。

また、ヒンドゥー教は、キリスト教とイスラームに次ぐ世界第 3 の宗教であり、約 6 億 5,000 万人の信徒を擁している。また、ヒンドゥー教徒の大多数が、インドに在住している。そこで、インド最大の商業都市ムンバイに焦点をあてた。この理由は、インドのムンバイは、ヒンドゥー教徒が住民の主流を占めるが、ヨーロッパやイスラーム世界とも歴史的に交流があり、ムンバイを本拠地とするタタ財閥のタター族はパールシー教徒（イランではゾロアスター教）として知られるなど、多文化が混在する都市であるためである。

そして、イスラーム圏とヒンドゥー圏が混在する地域は、特にインドから東南アジアにいたるインド洋周辺に多く見られた。なかで

も、シンガポールは、国際的な商業都市として発展しており、隣接するマレーシアと同様に、中国系の華僑、マレー系などのイスラーム教徒、そしてヒンドゥー教徒、欧米人も共生する多文化社会である。そのため、さまざまな宗教・文化の影響を受けた企業経営が存在している。

本研究で考察したのは、まず、①宗教・文化に基づいた商慣行・会社法制度である。ここでは、イスラーム圏とヒンドゥー圏における商慣行・会社法制度が、企業経営に、どのような影響を与えているのかを検討した。商慣行は、イスラーム圏では、リバー(利子)の禁止やザカート(喜捨)、イスラーム金融機関などが、一方、ヒンドゥー圏では、いまだカースト制の影響による職業の制限などがみられた。

つぎに考察したのは、②宗教・文化に基づいたトップマネジメントと企業経営機構である。ここでは、ファミリー企業、経営者(社内取締役・社外取締役)、情報開示・透明性の3つを検討した。イスラーム圏とヒンドゥー圏の企業経営は、ファミリーを基本としているところに特色があるが、タタ・グループやアルセロール・ミッタルのように、世界に進出した大企業は、宗教的な文化に固執することなく、文化にあわせた経営をしていた。とくに、アルセロール・ミッタルは、インドの資産家であるラクシュミー・ミッタルがCEOおよび大株主である企業であるが、積極的なM&Aにより、ルクセンブルクに本拠地を構える世界的な企業へと成長した。ルクセンブルクに本拠地を有することから、ルクセンブルクの法や商慣習に適合した経営を実施している。

そして、③イスラーム圏とヒンドゥー圏の企業経営の融合では、今後、活発化することが予想されるイスラーム圏とヒンドゥー圏の企業経営の新たな企業システムを明らかにした。先進諸国においては、現代市民社会思想に基づいた企業経営システムを形成していた。しかし、イスラーム圏やヒンドゥー圏では、宗教的価値観や民族的な慣習などに基づいた企業経営システムが作りあげられていた。その一方で、経営者が、ヒンドゥー教徒であっても、イスラームでは許容する風土を持ち合わせており、近代的な企業経営システムを取り合わされているといえる。

今日では企業経営の国際に伴い、宗教・文化が融合した企業経営が起きている。とくに、

これまで宗教・文化の壁が存在していたと考えられるイスラーム圏とヒンドゥー圏の企業経営組織の融合も当然グローバルな経営に乗り出している。イスラームとヒンドゥーを比較すると、イスラーム圏では、企業経営に宗教を基盤とした文化が依然として強く残っており、ヒンドゥー圏では、企業経営から宗教を基盤とした文化が排除されつつある。とくに、本研究の対象地域であるドバイやムンバイ、シンガポールは、地域の国際性も高く、イスラームとヒンドゥーだけでなく、キリスト教や仏教など多くの宗教の影響を受けている。このような、他文化社会では、利息の概念がないイスラーム金融や戒律に適合したハラールなど、文化に対応した経営が求められているのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① 小島大徳「原発爆発は経営システムの問題なのである」『国際経営論集』査読なし、神奈川大学経営学部、第43号、137-144頁、2012年。
- ② 小島大徳「マネジメント・システムの自由と統合—株式会社制度に代わる新しい会社制度を目指して—」『新たな経営原理の探求(経営学論集)』査読なし、千倉書房、第81集、164-165頁、2011年。
- ③ 小島大徳「原則という響きから」『国際経営論集』査読なし、神奈川大学経営学部、第41号、71-76頁、2011年。
- ④ 小島大徳「新しい株式会社制度の創設—資本主義と法人制度のウソから始まる新経営学」『国際経営フォーラム』査読なし、神奈川大学国際経営研究所、第21号、23-38頁、2010年。
- ⑤ 小島大徳「経営学者の無力感と孤立感、そして嘘」『国際経営フォーラム』査読なし、神奈川大学国際経営研究所、第21号、125-144頁、2010年。
- ⑥ 小島大徳「コーポレート・ガバナンス原則の地域調和化」小島大徳、『プロジェクトペーパー』査読なし、神奈川大学国際経営研究所、No.20、49-86頁、2010年。
- ⑦ 小島大徳「時をかけるコーポレート・ガバナンス原則—20年間の軌跡」小島大

徳,『国際経営論集』査読なし,神奈川大学経営学部,第 39 号,77-92 頁,2010 年.

〔学会発表〕(計 4 件)

- ① 阿部克彦 “Collecting Iranian Silk Textiles During the Edo Period”, International Conference: Textile Trades and Consumption in the Indian Ocean, McGill University, Montreal Canada, 2012 年 11 月 3 日.
- ② 阿部克彦 “Safavid silk as gift for Shōgun; Iranian textiles in Japan during the Edo Period (1603-1867)”, 7th European Conference of Iranian Studies, Jagiellonian University, Krakow, Poland, 2011 年 9 月 10 日.
- ③ 小島大徳 「マネジメント・システムの自由と統合一株式会社制度に代わる新しい会社制度を目指して―」日本経営学会(於石巻専修大学)2010 年 9 月 3 日.
- ④ 小島大徳 「コーポレート・ガバナンス政策論―原則の新たな役割と使命に焦点をあてて―」経営行動研究学会(於早稲田大学)2010 年 8 月 3 日.

〔図書〕(計 1 件)

- ① 小島大徳『株式会社の崩壊―資本市場を幻惑する 5 つの嘘―』,創成社,2010 年.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部 克彦 (ABE KATSUHIKO)
神奈川大学・経営学部・准教授
研究者番号: 40316906

(2) 研究分担者

小島 大徳 (KOJIMA HIROTOKU)
神奈川大学・経営学部・准教授
研究者番号: 70386803

(3) 連携研究者

該当なし